



# 2022 年度 昭和大学Ⅱ期

## 【 講 評 】

[1]は4択式の文法・語彙問題。レベルはやや易～標準。難問も見られた1期に比べるとやや易化しているため取りこぼしのないようにしたい。[2]は「独創性」に関する長文読解問題。レベルはやや易～標準。こちらも[1]と同様に1期より易化した。特に記述問題の負担が大きく減っている。[3]は「長期記憶の分類」に関する長文読解問題。レベルはやや易～標準。解答に悩む問題はない。

全体的に易しいレベル設定になっているので、英語は短時間ですばやく正確に仕上げ、その分数学に時間をかけるというのが合格のための戦略になるだろう。

## 【 解 答 ・ 解 説 】

[1]

1. C mentioning

「それは重要ではないので、スピーチで言及する価値はほとんどないと思う」

・ be worth *doing* 「…する価値がある」

2. D broke into

「容疑者は警察を見ると、突然走り出した」

・ break into O 「急に O をし始める」

3. A she wasn't

「彼女は彼らの決定に対して気が動転しているだけではなく、相談されなかったために非常に腹を立てているのだ」

4. D with

「その荷物手伝わせてよ、重いに違いないね」

・ with A 「Aについて」

・ help you with those bags と同意表現。

5. C means

「メールは日本の十代の若者たちの間では、非常に一般的なコミュニケーション手段である」

・ means 「手段」

・ texting=text messaging 「携帯電話（スマホ）によるメールのやりとり」

6. B have

「彼の主治医は、できるだけ早く手術を受けるように勧めた」

・ recommend that S (should) *do*

7. D twice as often as I do

「彼女はバイオリンがとても上手だ。私の2倍は練習している」

・〈twice as +形容詞・副詞 as〜〉「〜の2倍…」

8. B considering

「年齢を考慮すると、彼は非常に活発だ」

・considering A 「Aを考慮すると」。前置詞的に用いられる。

9. C what

「その新作映画は、私たちが予想したものではなかった」

・what を用いた連鎖関係詞節。what it would be の what の直後に I thought が挿入されたと考えてもよい。

10. A had he said it than

「彼はそう言うやいなや泣き出した」

・no sooner...than〜「…するやいなや〜」。本問では、否定表現の no sooner が文頭にあるため had が倒置されている。

・burst into tears 「突然泣き出す」

11. D tip

「のどまで出かかっているんだけど、あの俳優の名前が思い出せない」

・on the tip of one's tongue は“舌の先にある”という表現から「のどまで出かかって、もう少しで思い出せそうで」の意味で用いられる。

12. A remained

「事故の後、彼女は5日間意識不明のままだった」

・remain C 「Cのままである」

13. A about

「今にも眠りに落ちそうになっていたときに電話が鳴った」

・be about to do 「今にも…するところ」

14. C imaginative

「カズオ・イングロは非常に想像力に富んだ作家だ」

・imaginative 「想像力に富む」

・imaginary 「架空の」、imaginable 「想像しうる」はいずれも文意に合わない。

15. A could

「男性：クリスマス休暇中に家族に会いにアメリカに戻るの？」

「女性：そうできればいいんだけど。学期の終わりまで日本にいないかならなと思う」

・wish S could do 「…できればいいなあ」

[2]

1. 3 番目 : something 7 番目 : young [originality is something we find in young people]

・we find...は something を先行詞とする関係詞節。

2. 「人が加齢に伴って独創性を失っていくということ」(22 字)

・下線部を含む文は「しかし、このことがいつでも起こるわけではない」という意味。それに続けて、高齢者の方が貴重なアイデアを持っているという趣旨が述べられている。したがって、下線部 this が直前の文中にある people do often lose their originality over time を指していると考えると自然なつながりとなる。

3.

(ア) 4. with

・〈with+名詞+分詞など〉の形で付帯状況を表す。空所を含む文の意味は「高齢の従業員の方が若年の従業員よりも、より多くより良いアイデアを持っていて、最も価値あるアイデアは 55 歳を超えた従業員から提案されるようだ」となる。

(イ) 4. which

・different things を先行詞とする関係代名詞。

(ウ) 3 on

・on average 「平均で」

(エ) 3 had been discovered

・空所を含む文は「それは経験主義の科学者によって発見されてきたことを説明するアイデアだった」という意味。

4. to approach a problem in a new way

・下線部を含む文は「年をとるにつれて、彼らはそれをより難しく感じるようになる」という意味。直前の文で「若者は新しい方法で問題にアプローチするのが容易だ」とあるので、下線部 it は「新しい方法で問題にアプローチする」を指していると考えられる。

5. 「何千回も演説を行いながら、演説の仕方を変えていった」

・changing...は giving...と and で並列された分詞構文。did so は直前の giving thousands of speeches を指し、them は speeches を指している。

[3]

1.

(A) 4 steady and not likely to move or change

・stable 「安定した」

(B) 3 to recognize the difference between two things

・distinguish 「区別する」

(C) 3 new

・novel 「新しい、奇抜な」

2.

(ア) 3 like

・空所に「…のように」の意味の前置詞 like を入れると、「上手にそして無意識に文字を打ったり自転車に乗ったりするときのように」となって文意に合う。

(イ) 3 Say

・ここでの say は「たとえば」の意味の副詞。

(ウ) 3 or

・空所直後の形容詞 explicit が、直前の形容詞 conscious と or で並列されている。この場合の or は「言い換え」を表す。空所を含む節は「その作業の前に alligator という単語を見たという conscious memory、つまり explicit memory は彼らにはないけれど」となり、文意に合う。(conscious memory も explicit memory も一般的に「顕在記憶」と訳される)

(エ) 4 respectively

・ respectively は「それぞれ」の意味の副詞。下線部を含む節は「それら(implicit memory と explicit memory)を現在多くの専門家が、それぞれ nondeclarative memory(潜在記憶)、declarative memory(宣言的記憶)の代わりに用いている」となり文意に合う。

(オ) 4 with

・ be associated with A 「A と関連している」

3. 「手続き記憶を細かい手順に分けて説明すること」

・ 直前の if 節中の to break down the steps of a procedural memory を指している。

4. 「truck より nurse の方が、文脈的に doctor と関連性が強い意味を持っているから」

5. 2

・ 下線部を含む文は「それは思い出されるのをただ待っているだけなのだ」という意味。直前の文は「私たちは意識的にそこにあると知らずに情報を保持できる」とあるため、下線部 it は「情報」を指していることがわかる。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>